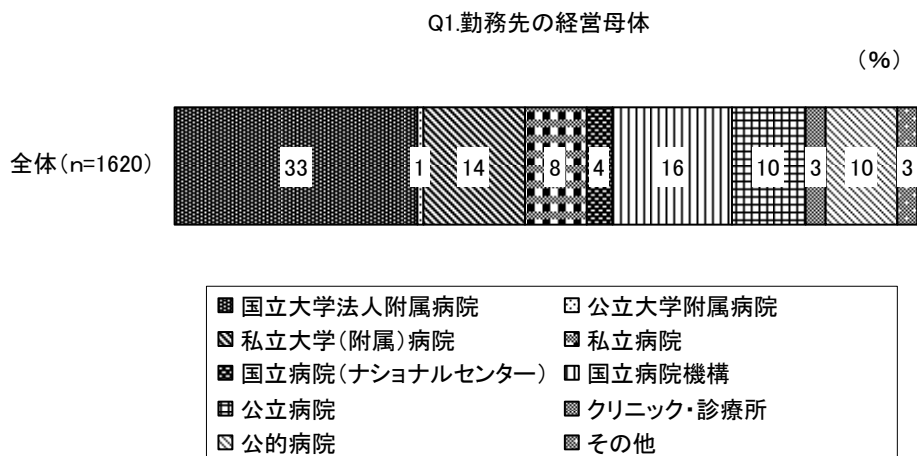


5. 各人材の現状と課題

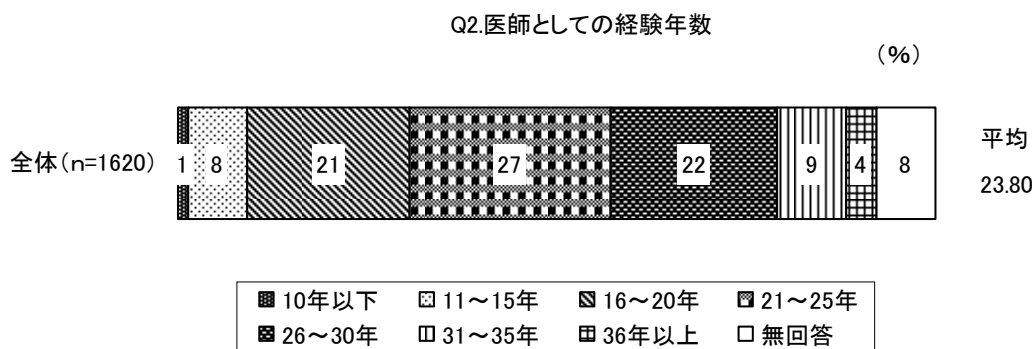
5.1 治験実施医師

二次調査の結果、治験責任医師 1,620 名より回答を得た。

(1) 背景



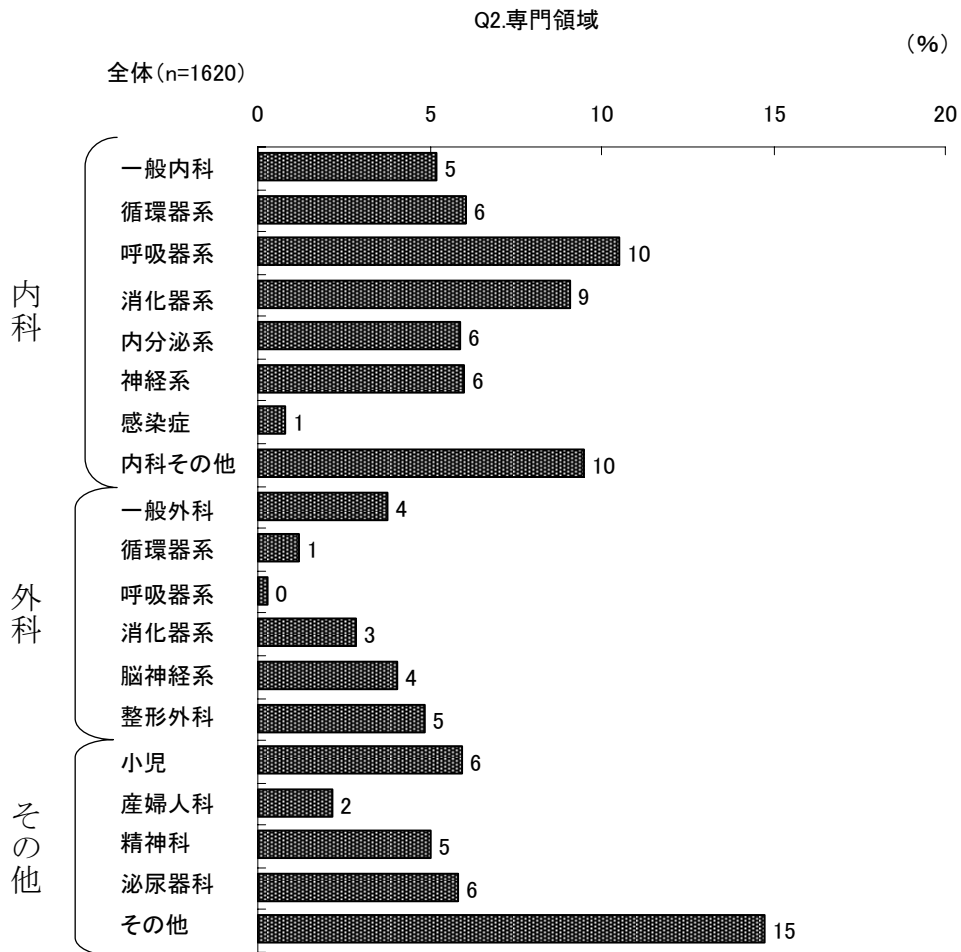
勤務先としては、国立大学法人附属病院が 32.8%と最も多く、以下、国立病院機構 (16.1%)、私立大学附属病院 (13.8%)、公立病院、公的病院、ナショナルセンター、クリニック・診療所と続いた (いずれも 10%以下のため省略)。



医師としての経験年数（設立形態別）

	n数 (人)	平均 (年)	10年 以下 (%)	11～ 15年 (%)	16～ 20年 (%)	21～ 25年 (%)	26～ 30年 (%)	31～ 35年 (%)	36年 以上 (%)	無回答 (%)
全体	1620	23.80	1.3	7.9	21.4	26.6	22.0	9.0	4.2	7.7
大学附属病院	765	23.34	0.8	8.9	24.3	25.5	19.0	8.4	4.1	9.2
私立病院	134	23.70	3.7	5.2	20.9	30.6	15.7	8.2	6.0	9.7
ナショナルセンター・ 国立病院機構	319	23.54	1.6	8.5	18.5	32.3	22.9	8.2	2.2	6.0
公立病院・公的病院	313	24.82	1.6	6.1	16.3	25.2	29.4	11.2	4.5	5.8
クリニック・診療所	45	26.33	0.0	6.7	17.8	17.8	31.1	8.9	11.1	6.7
その他	44	23.93	0.0	9.1	34.1	11.4	25.0	11.4	6.8	2.3

治験責任医師は、卒後 21～25 年が 26.6%と最も多く、26～30 年 (22.0%)、16～20 年 (21.4%) と、卒後 16 年以上の医師が約 7 割を占めていた。設立形態別にみると、クリニックには 26～30 年にピークがあった。



専門領域については、呼吸器系（内科）が 10%とやや多かったが、主な領域にほぼまんべんなく分散していた。